

時計の動作不良について

日頃様々な種類の時計が持ち込まれていると思いますが、電池式・機械式にかかわらず、瑕疵ポイントがある品物も多いのではないのでしょうか。

リューズが抜けてしまったり、振るとカラカラと音がしたり、その具体的な原因を見つけることは難しいです。

本部でお預かりさせていただいた際に不良が見つかることも多くあるため、その具体的な理由について解説いたします。

1 電池式(クォーツ式)時計の不良

電池式の時計不良の主な理由は3つに分けられます。

1. 電池切れ

単純に電池が切れているものであれば、電池交換のみで対応可能です。交換費用だけであれば安くて500円～1,000円程度ですが、海外製であったり防水試験がついてくるものであれば、合計で1万円を超えてくる場合もあります。



2. ムーブメントの故障

電池を正しく入れても動かない場合、歯車や電子回路などに問題がある可能性があります。強い衝撃により歯車がずれていたり、経年による腐食で回路基板が破損していることなどが原因です。修理にはオーバーホールが必要になり、費用は1万円程度から、高級時計では10万円近くになるものもあります。

3. 運針の間隔

通常、電池式時計の場合は1秒に1回カチッと動くステップ運針で動いていますが、針が数秒に1回動くものがあります。不良と思われがちですが、この場合は電池切れに近い警告の可能性が高いです。特にソーラー式時計で充電不足になると2秒・5秒に1回の運針になるため、光をあてると正常に戻る可能性があります。

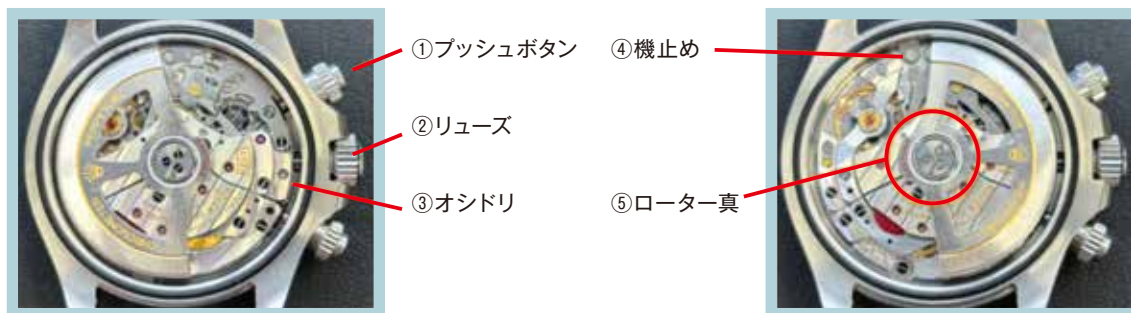
2

機械式時計の不良

機械式時計の不良の原因は多岐にわたりますが、下記写真を参考に特に不良が起きやすい個所について説明します。

パーツ名称

↓ ロレックス cal.4131 自動巻きクロノグラフムーブメント



1. クロノグラフ不良

- (1) クロノ針が動かない、クロノグラフをリセットした時に針が0の位置からずれているなどの不良があります。動かないものは機械が劣化しており、プッシュボタン自体が作動しなくなっているものが多いです。この場合、分解修理が必要になり費用も5万~10万程度かかる可能性があります。
- (2) クロノ針が0の位置（帰零位置）からずれているものは、針のカシメ（金属を圧力でつぶしてパーツを接合させること）が緩くなっているか、歯車がずれてしまっていることが原因として考えられます。カシメが劣化すると、針が緩くなり空回りする状態になってしまいます。（右図）

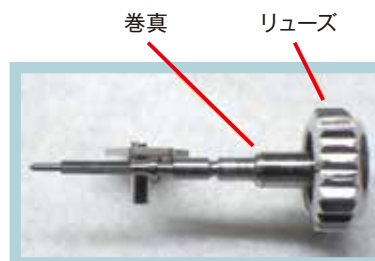


2・3. リューズ・オシドリ不良

機械式時計において、もっとも不良が起きやすい箇所になります。

(1) 頭部分が取れる

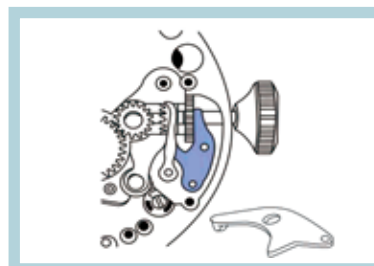
リューズは主にリューズと巻真の2つのパーツから構成されています。2つのパーツはねじで合わさっているため、ねじが緩んでリューズが取れているものは簡単に修理できる可能性があります。しかし、折れてしまっているものは交換が必要になります。



(2) リューズが抜ける

巻真が抜けてしまうものは、オシドリが故障している可能性が高いです。オシドリとはリューズの押し引きによる日付・時刻調整を制御したり、リューズが抜けないようにロックしたりするパーツです。

（右図）



このロックが緩んだり、オシドリ自体が折れてしまうとリューズが固定されずに抜けてしまいます。



4. 機止め不良

機止めとは、ムーブメントと外側のケースを固定させてがたつきを防ぐ、ねじや板のことを指します。(右図) このねじが緩んでいたり板が変形しているとケース内でムーブメントが浮いている状態になるため、リユース操作の際にムーブメントがグラグラと動いてしまいます。



5. ローター真の不良

自動巻きを可能にしているローターの中心にはローター真と呼ばれる軸がありますが、重たいローターを支え続けているため摩耗して緩んだり、折れてしまうことがあります。振るとカラカラと音がするものは、芯が折れたり抜けてしまいローターが落ちてしまっている状態で自動巻きができなくなっています。

以上のような不良があると査定金額にも影響が出てきますので
査定時の申告をご協力お願いいたします。

気になること・わからないことありましたら
お気軽にブランド室までお問い合わせください。